

五錢活字三丁	一行廿四字砧	自一 行至十 行	自十一 行至青 行	三十一 行以上
一 行 三 付	一 行 三 付	八 錢	九 錢	十 錢
二 日 以上	二 日 以上	八 錢	八 錢	八 錢
六 日 迄	六 日 迄	七 錢	七 錢	七 錢
十 五 日 迄	十 五 日 迄	六 錢	六 錢	二 兩
一 行 三 付	一 行 三 付	五 錢	五 錢	五 錢
一 行 三 付	一 行 三 付	八 厘	八 厘	五 毛
一 行 三 付	一 行 三 付	五 錢	五 錢	五 厘

## の獨立

なき政治と共に其方針を同うせしむる様の次第にては文明の大本輕くして危しと云はざる可らず日本の帝國大學も良しく文部省の管轄を離れて政治以外より獨立するの工風大切ありとて近來頻々議論を勧うし事の詳細にまでも立入りて案を立つるもの少なからざれども第一の問題は其維持資金にあると云ふ或は下ノ闇一件の債金を渠に米國より返還したるを幸ひ之を以て永代資本より充てんと云ふもあれど是れは何か故障あるよしと近來は又一案を提出し帝室に直隸せしめて以て帝室費の幾分に依頼せんとの說もありと云ふ元來大學獨立のことは餘程以前より計畫ありしよしなれども此頃より俄々動搖したるよりて之を見れば或は邪推ならんも知る可らざれども國會開設の期限もいよいよ差迫りたれば今後かひく政黨の勝敗と共に學問までも左右せられては迷惑の限りのみか其存亡さへ瀕り難しどと扱ふそ身構え忙はしきものあらんか成程政黨の勢力の消長は頻繁にして今之政府の固定あると同じからざれば其都度影響を蒙るは懶きよ相違なけれども左りとて之が爲めゝ狼狽すべきに非ず我輩を以て見れば唯此儘に文部省あり内務省なりの管轄に屬し國庫の支辨又一任して悠々學問を講するふを然るべけれども認むるものあり抑も帝國大學を要用と認め不用とし將た國の經濟に適すと云ひ適せすとするは元來何人の意見あるや今や國會を開いて人民の輿論を問ひ凡る立國の大體に關する公事は悉く之によりて處置せんとするの時に當り何れ公けの扶助より頼すべし帝國大學が獨り輿論に反對して存在するの理由ある可らず思ふ是れまで年々三十萬圓の國財を費やし幾年の間無事に存立したる所以は帝國大學は學藝の源として立國より大切ありしが故なるべし果して左程に大切なもののあらんとは國會の議員とても何ぞ濫に廢止の說を好まんや然るに却つて人民の輿論を恐れ遂に退守せんとするに至りては從來存立したる所以も聊か疑はしき次第なるが如し即ち公立大學の存亡と司どるのは二三の學者政事家に非ずして人民の輿論に外あらざる可ければ國會よりして性質より分析すれば文部省の費用も之に與ある所ある可らず然れば今假に國會は大學を無用視するふとおりとして其無用性が帝室費の幾分と云ふ見ゆる焉たらざるを覺ゆるなるべし審議を業するに國會は帝室費に喙を容るもと能はざれども實際その出處を尋ねれば人民の租稅に外あらずして

さは如何んの威を爲す可きや一步令々次第に俗諱を離  
うして遂に論及す可らざる帝室費をも併せて議せんと  
するに至るふとはなかるべきや是れふを容易あらざる  
大事よして毎度申す如く我が帝室は政治の俗諱を脱し  
遂に天外の高處に立て尊嚴を保ち以て全國を緩和し玉  
ふべきものなる此邊も思ひ到らすして一朝大學にて  
庇蔭を求めたるが爲め畏くも政敵の中に煩はし奉らん  
は以ての外のふと云ふべし大學獨立の議論も勝手た  
るべしと雖も其考案を帝室に向けたるは誠に量見の宜  
しからざるものよして我輩の竊々厭ふ所あり

くなりと左れば氏は學者として最も敵愛を受るのみならず長壽を以ても佛人の最も尊崇する所ありしよも○獨相、羅印宇會を賛成せす。獨逸又於て羅印の字を用ひて文章言語を綴る可しと云へる講論の起りしどき老相ビスマークは大に反對し獨逸は獨逸にて押通さる可らず學問の上より外の文字を彼是申すは兎も角もなれど國文としては依然たる本色を保つ可きものなりと語りしよし是れは獨人モッセ氏が去る四日、「かなのくわいふほよりあひ」の主意を賛成の演説をなせし其砌日本は日本又固有の文字を用ひて今まで數千年來慣用の漢字を破るは論あし將に侵し來り又迎へ入れんと

かほよりあひ」  
日取締元田直臣  
ば明治十四年初  
公にして普く世  
多く別にいろは  
分派の生せしを  
氏の重なる書方改  
かなのくわいの書  
來たる書方改更  
三四人の會員と

○地方は勢力の本あり 今を去る二三年前政治思想の尚ほ幼稚なりし頃は政治上の騒動は常々中央政府の下なる東京のみに集り政談演説懇親會其他壯士の群集等凡る政治上の事件出来事と云へば東京よりてせざるはなかりし程なるに昨年來政治上の運動漸く烈しさを加ふるごとに同時又此運動は其方向と轉じ此迄に引き替へ東京は寧ろ靜謐の有様とあり政談演説懇親會議員撰舉壯士の暴行など何れも地方より其聲高くなりしが右は必竟するゝ地方より撰ばれて議員たらんとする熱情の然らしむる所ならんが此れと同時に茲より又變化を顯したるは地方新聞論説の以前より比して其議論文章の稍見るべきものあるに至りし一事なり其次第を聞くに此れも右同様の原因に基きしものとして各政黨が地方よりて勢力を占めんとの考より府下政黨員中の文章を見るべきものが地方新聞より文章を投寄して已れの黨勢能くするものが近來聞く處に從へば右を二十四年度若しくば二十一年度の事に改め其兩年度何れかは未だ決定なし迫りしに近來聞く處に從へば右を二十四年度若しくば二十一年度の事に改め其兩年度何れかは未だ決定なし居らざる趣向なれども兎も角も本年度内より其運びに至るまじきよしなり

○東京俱樂部の臨時大會 は去る四日柳橋萬八樓より開會したるが當日の來集者は總て百七十四名何れも時刻を違へず參會したれば午後二時會長は起て開會の旨を告げ先づ第一號議案（第六條本會は常議員廿名幹事五名以下を置く但し常議員又欠員あるときは次點者を以て之れ又充つ、第七條常議員は毎年初年初期大會に於て會員中より公撰し幹事は常議員會に於て之れを撰舉す）の議事に取掛りたる又何れも大多數にて原案通りに決し次よ立川雲平氏の提出したる東京俱樂部規約中第四條を削除して第八條の基本會員を東京會員、賛成會員を地方會員となすの建議案も又満場總起立みて可決し松本四郎氏の本會を政治俱樂部の組織に改むべし云々の發議は無要なりとの反對說出て一人の外可とするものなく遂に消滅したり是れにて暫らく會議を中止して會計の報告等を畢り第二議案なる常議員補欠員の投票を行ひたるに大江卓（百三十）小林樟雄（百十七）花香恭次郎（九十五）板倉中（九十四）河野廣中（十六）新井章吾（七十四）宮地茂春（七十四）松尾清次郎（六十七）松本暢（六十五）植木綱次郎（六十二）石坂昌孝（六十一）の十一氏高點にて當選したるも松本氏は辭任したるに付次點なる森隆介、曾田知三郎の兩氏に托するふとしあり夫れより再び會議を開き大井氏の發議よ係る寄附金を以て支辨し得べき制限内に於て常議員會は庶務、會計、編輯報告、遊説演説、の三科を置くの議も異議なく可決し最後よ第三號議案なる關東會に出席の委員撰舉は全く常議員より委托するふとして散會したるは午後五時半なりしと

○版權侵害事件 服部誠一氏等に係る版權侵害事件の公判は東京輕罪裁判所に於て追々延期し來りしが尙は又来る十七日まで延期する事とありたるよし

○江戸新聞 繪入朝野新聞は明治十六年に起り朝野新聞又附隨して名を江湖に知られ爾來發刊の高も次第に實無慮百數十名又酒肴の間に幾番の餘興を添へ江戸新聞に因たる新作江戸紫ゆかりの一本あと云へる長唄もあり又薩摩踊りもあり又落語茶番もありて興酣はある時墨水の流よ浮べる舟より數十枚の花火を打揚げ近來にあき盛衰なりしと云ふ

○本内伊之助氏 常總の青年の主筆記者たりし本内伊之助氏は今度都新聞に入社したりと